

基準 8 教育の内部質保証システム

(1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①： 教育の取組状況や大学の教育を通じて学生が身に付けた学習成果について自己点検・評価し、教育の質を保証するとともに、教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能しているか。

【観点到係る状況】

教育に関する基礎的なデータ（成績評価、定期試験等試験成績、進級判定状況、生年月日、出身地、出身校等）、入試関連データ（志願者、一般入学者選抜方法及び特別選抜方法による入学試験成績、大学入試センター試験成績、合否判定データ等）、就職関連データ（卒業生が就職した企業（会社名、業種、所在地））は、関係部署でデータベース化し管理している。

また、教育研究状況の実態を示すデータ・資料の収集・蓄積のため、教員自身が活動状況を入力する「教員活動データベース」を構築し、教育の実態等の組織的な管理を行って現在に至っている（別添資料 8-1-①-1）。

これらとは別に、法人化後、本学の自己点検・評価として、平成 23 年 3 月に三重大学自己点検・評価報告書「紡ぐ」を作成し、第 1 期中期目標・中期計画期間における教育研究活動の検証を行うとともに、教育の質の改善に役立てている。その後も中期目標・中期計画に照らして、毎年度、教育、研究、社会連携、国際交流、業務運営、財務内容等の各活動状況について、根拠となる資料やデータ等に基づき、報告書を作成している。

さらに、教員自身の教育の質保証を図り、各学部・研究科の教育研究活動の活性化を図るべく、教員個人評価を実施している。具体的には、各教員が自己の教育研究活動等を「PDCA 自己申告書」に記入して部局長に提出し、部局長が教員活動データベースのデータと合わせてその評価を行い、最終的に、学長を委員長とする全学の評価委員会にて審議し、最終評価を行っている（別添資料 8-1-①-2）。

また、教育会議・各学部教務委員会及び高等教育創造開発センターによる、教育満足度調査、卒業生・事業所調査、修学達成度調査分析結果などを基に、カリキュラム及び指導方法等の改善について検討しており（資料 8-1-①-A）、各学部の FD 委員会、教務委員会、カリキュラム改革委員会等では、教員の質の向上を目的に FD 研修を実施し、様々な角度から教育の質の向上、改善について検討している。具体的な改善策として、専門演習の配属時期の変更などの教育方法の改善、実社会で役に立つ教育内容への改善、学生のケア・相談体制の充実、無線 LAN や机・椅子などの設備の充実などを行っている。

教育会議及び高等教育創造開発センターの教育開発部門において、教育方法の見直しや具体的な方策を検討しており、同センターの教育評価部門による調査分析結果が、各学部にはフィードバックされ、教育改善に役立てられている。

また、授業改善アンケートからのフィードバックは、個々の教員の授業改善を促進している。アンケートの結果は各授業担当教員に通知し、学生に対してはシラバスにおいて「授業改善への工夫」という項目で具体的な改善方法を示している（資料 8-1-①-B）。

さらに、生物資源学部では、教員自らが記載した「改善対応」がその通り実行されたかどうか

を、授業改善アンケートで学生が判定することとしている（別添資料 8-1-①-3）。また教育学部では、授業改善アンケート結果とそれに対する教員のコメントを学内ウェブサイトで公開している（資料 8-1-①-C，別添資料 8-1-①-4）。

「三重大学ウェブシラバス」は、本学で開講されている授業のシラバスをウェブサイトに掲載したシステムであり、授業内容の閲覧や、シラバス検索ができるものである。また、授業改善への対応や本学の教育目標との関連性などを記述する項目も用意され、個々の教員が、次期授業開講前に学生に対して自己の授業改善について提案するシステムとなっている（前掲資料 5-2-③-A）。

資料 8-1-①-A 各学部のカリキュラム改革を検討する委員会等

共通教育	学務部門会議，教養教育部門会議，実践教育部門会議
人文学部	教務委員会
教育学部	学部カリキュラム改革特別委員会
医学部	教務委員会，大学院委員会
工学部	教務委員会
生物資源学部	学部教務委員会，大学院教務委員会

（出典：各学部提供資料を基に作成）

資料 8-1-①-B 三重大学ウェブシラバス（授業改善への工夫記載例）

予め履修が望ましい科目	社会において生じた民事紛争や、その他、民事的な問題をどのように解決へと導くのか、というのが民事手続法における共通の視点なので、民法や商法といった実体法についても基本的な知識を持っていることが望ましい。 また、民事訴訟手続についても基礎的な理解が必要であるため、3・4年次を対象とする民事訴訟法の講義も履修済であることが望ましい。
発展科目	民事系科目
授業改善への工夫	内容が難解かつ範囲が広いとの指摘が多いため、より重要なポイントに絞り、飲み込みやすい解説を心がける。 また、民事訴訟法の講義と時期がずれることから、民事訴訟手続についても必要に応じて解説する。
その他	※穴法を携行すること。

資料 8-1-①-C 教育学部授業評価

三重大学 | 教育学部・大学院教育学研究科

Google Custom Search 検索 サイトマップ ENGLISH

お知らせ 交通案内 キャンパスマップ お問い合わせ先

TOP 学部・研究科概要 教育 研究 附属施設 地域・社会連携

受験生の皆様へ 教育機関・企業の皆様へ 卒業生の皆様へ 在学生用ページ

TOP > 教育 > 教育改善への取り組み > 学生による授業評価

教育改善への取り組み

学生による授業評価

校内からのみアクセス可能です。

- 2013年後期実施分 PDF
- 2013年前期実施分 PDF
- 2012年後期実施分 PDF
- 2012年前期実施分 PDF
- 2011年後期実施分 PDF
- 2011年前期実施分 PDF
- 2010年後期実施分 PDF
- 2010年前期実施分 PDF
- 2009年後期実施分 PDF
- 2009年前期実施分 PDF
- 2008年後期実施分 PDF
- 2008年前期実施分 PDF
- 2007年後期実施分 PDF
- 2007年前期実施分 PDF
- 2006年後期実施分 PDF
- 2006年前期実施分 PDF
- 2005年後期実施分 PDF
- 2005年前期実施分 PDF

（出典：本学ウェブサイト <http://www.edu.mie-u.ac.jp/students/fdcp/index.html>）

別添資料 8-1-①-1 教員活動データベースについて
 別添資料 8-1-①-2 教員個人評価結果報告書【訪問調査時提示】
 別添資料 8-1-①-3 三重大学生物資源学部の教育貢献表彰に関する要項
 別添資料 8-1-①-4 教育学部授業評価

【分析結果とその根拠理由】

全学評価委員会の下で教員活動データベースを構築し、教育の活動状況を示すデータや資料を適切に収集し、蓄積している。さらに、これとは別に、本学の自己点検・評価として、中期目標・中期計画に基づく年度計画に照らして、毎年度、教育、研究、社会連携、国際交流、業務運営、財務内容等の各活動状況について、根拠となる資料やデータ等に基づき、報告書を作成しており、その評価結果は、各部局の構成員にフィードバックされ、教育の質の向上、改善のための組織的な取り組みが行われている。

また、授業改善のためのアンケートやウェブシラバスなどを通して、教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて改善・向上を図るための体制は整備され、授業内容等の継続的改善に取り組んでいる。

以上のことから、教育の取組状況や大学の教育を通じて学生が身に付けた学習成果について自己点検・評価し、教育の質を保証するとともに、教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していると判断する。

観点 8-1-②：大学の構成員（学生及び教職員）の意見の聴取が行われており、教育の質の改善・向上に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

【観点到係る状況】

教育内容については、教育会議及び高等教育創造開発センターが中心となって、全学統一授業評価を実施している。平成 22 年度にはアンケートの方針を見直し、「授業に対する評価」から、「学生自身の学びの振り返り」を中心とする形式に変更した。アンケートは、学びの振り返りと、授業に対するニーズ、教員が独自に設定する項目の 3 種類を同時に評価する本学独自のシステムとなっている。平成 25 年度からは、回答及び集計をより迅速に行うことができる Web 回答システムの運用を開始した（資料 8-1-②-1）。

学習環境については、本学の教育に対する満足度を的確に測るため、学部と大学院で教育満足度調査を継続的に実施している。この調査結果の報告書は本学ウェブサイト上でも公開され、各学部の教務委員会に配布されるとともに、各学部の教務委員会等で教育改善のための資料として活用されている（別添資料 8-1-②-A）。

また、学生、教職員及び学長が共通教育を始めとした本学の教育について直接、議論や意見交換をする、「共通教育を語る会」が平成 23 年から定期的に行われ、活発な意見交換を行っている（資料 8-1-②-B、別添資料 8-1-②-2）。

既述（観点 5-2-①）の「三重大学教育 GP」では、その取り組みのヒアリングを全学 FD として開催しており、そこでのコメントが GP の実施に反映されている。また、取組期間が 2 年に及ぶプロジェクトに関しては、中間報告を行うこととしており、その中間報告に対して教育会議委員に

よるコメントを取組み代表者に送付し、プロジェクトの実施改善に役立てている。平成 25 年度には過去 5 年の「三重大学教育 GP」に採択された取組み代表者に対しアンケートを実施し、その集計結果を教育会議で検討することにより、今後の本制度の改善に役立てている（前掲資料 5-1-③-2）。

また、学部等においても教育の質の改善への取組みを行っている（別添資料 8-1-②-3）。特に、地域イノベーション学研究科では、全教員と博士後期課程の 2 年生が、「研究内容講演会」として、毎年 1 回ずつ 1 人当たり約 1 時間の講演を行っている（毎月開催）。「研究内容講演会」は本研究科を創設した平成 21 年度以来、継続して実施しており、研究内容を異分野の先生に理解できるようにわかりやすく説明し、異なる視点から研究内容に対して相互に意見交換し、参加者全員で異分野の考え方や問題点を理解し、イノベーションの種を発見する機会を提供している（別添資料 8-1-②-4）。

資料 8-1-②-A 平成 24 年度 三重大学教育満足度調査報告書

http://www.hedc.mie-u.ac.jp/pdf/H24manzokudo_report_outline.pdf

資料 8-1-②-B 第 5 回共通教育を語る会開催報告

<http://www.mie-u.ac.jp/topics/kohoblog/2014/01/post-803.html>

別添資料 8-1-②-1	平成 25 年度 三重大学 学びの振り返りシート／授業改善のためのアンケート（平成 26 年度第 2 回教育会議資料）
別添資料 8-1-②-2	共通教育を語る会実施状況（第 5 回・第 4 回）
別添資料 8-1-②-3	大学の構成員（学生及び教職員）からの意見の聴取に基づく教育改善等の取組み例
別添資料 8-1-②-4	平成 25 年度地域イノベーション学研究科 研究内容講演会題目一覧

【分析結果とその根拠理由】

授業改善のためのアンケートや、教育満足度に関する調査が継続的に行われ、それらの結果は教育改善のための資料として活用されており、組織的に学生の意見を聴取している。また、「三重大学教育 GP」では、その取組みについてヒアリング等の意見聴取を行う仕組みを設けている。学部等においても研究内容の発表を通じて異分野の考え方や問題点を理解するための取組みなどが行われている。

以上のことから、教育の状況に関する自己点検・評価に適切に反映させていると判断する。

観点 8-1-③： 学外関係者の意見が、教育の質の改善・向上に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

【観点到係る状況】

本学は、3 年に 1 度を目途に卒業生・修了生及びその就職先事業所を対象としたアンケート調査を実施している。最新の調査は平成 24 年度に行われ、その結果は本学ウェブサイト上で公開しているほか、調査対象とした全事業所に結果を報告した。この結果は、教育会議及び各学部教務委員会等で、社会のニーズに適合させるための教育改善の基礎資料として活用されている（資

料 8-1-③-A)。

平成 24 年度より、「三重キャリア連携会議」を開催し、三重県の地域産業界のニーズに対応した教育改善に向けた意見交換を行っている(資料 8-1-③-B)。また、三重キャリア連携会議での議論に基づき、地域産業界や近隣諸大学をも交えたシンポジウム「社会のニーズに対応した教育改革に向けて」を平成 25 年 9 月に開催し、地域を担う人材育成に関する議論を行った(資料 8-1-③-C)。

また、学部等においても教育の質の改善への取組みを行っている(別添資料 8-1-③-1)。特に人文学部では「あなたの学びを応援します」という企画を百五銀行の協力を得て行い、その中で、地元企業・人文学部学生の交流・懇談会を開催し、地元企業や学生の率直な意見交換を踏まえ、学生の進路選択や地域経済の活性化に地方の人文社会科学系学部としてどのように取り組むか課題を明らかにし、今後の運営に役立てている(資料 8-1-③-D)。

資料 8-1-③-A 平成 24 年度卒業生・修了生・事業所へのアンケート調査報告書

http://www.hedc.mie-u.ac.jp/pdf/h24_sotugyou_jigyousyo_outline.pdf

資料 8-1-③-B 三重キャリア連携会議

<http://www.mie-u.ac.jp/s-needs/relation/>

資料 8-1-③-C シンポジウム「社会のニーズに対応した教育改革に向けて」

<http://s-needs-chubu.pj.mie-u.ac.jp/tokai-a/2013/10/post.html>

資料 8-1-③-D 地元企業・人文学部学生の交流・懇談会(連続企画「あなたの学びを応援します」)

<http://www.human.mie-u.ac.jp/news/11111202.html>

別添資料 8-1-③-1 学外者からの意見の聴取に基づく教育改善等の取組み例
--

【分析結果とその根拠理由】

卒業生・修了生及びその就職先事業所に対して本学の教育に対する評価と期待を定期的に調査しているほか、組織的に学外関係者の意見の聴取を活発に行い、教育の状況に関する自己点検・評価に反映させている。また、学部等においても地元企業と協力して学生を交えた交流会を実施するなどニーズの把握と管理運営の改善に向けた取組みを行っている。

以上のことから、学外関係者の意見が、教育の質の改善・向上に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされていると判断する。

観点 8-2-①： ファカルティ・ディベロップメントが適切に実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

【観点到係る状況】

全学を対象とした FD 活動は、高等教育創造開発センターを中心に進めている。高等教育創造開発センターには全部局から教員が参加しており、FD の企画に多様な意見を反映している。高等教育創造開発センターを中心とした全学 FD は、本学ウェブサイトでもその概略を掲載し、外部へも積極的に紹介している(資料 8-2-①-A)。平成 23 年度は、全学 FD を計 8 回開催し、延べ

約 190 人が参加した。また平成 24 年度は、全学 FD を計 6 回開催し、延べ約 130 人が参加し、平成 25 年度は、全学 FD を計 4 回開催し、延べ約 110 人の参加があった（資料 8-2-①-B）。

既述（観点 5-2-①）のように本学は PBL 教育を全学的に推進しているが、その成果を学外にも発信するための全学 FD を「三重大学版初年次教育の展開と検証－全学生対象の PBL 型教育－」と題して平成 24 年 2 月に、公開 FD として開催し、帯広から福岡まで全国から約 60 名の参加を得た。また、講義を英語で行うための全学 FD「英語で授業する」を、平成 22 年度から平成 25 年度までの間に 4 回開催した。このほか、外部講師を招いての全学 FD「（当該年度）入試を振り返る」を毎年開催したり、授業アンケートシステムの Web 化に伴う全学 FD「Web 授業アンケートシステムによる授業改善」「Moodle の使い方」などを開催したりしている。また、既述（観点 5-1-③）のように、教育改善の取り組みである「三重大学教育 GP」の選考会、成果発表会を全学 FD として公開している。

また、各学部においても FD 活動が実施されている（資料 8-2-①-C）。

これらの教育改善活動を基盤として、本学は文部科学省や経済産業省などの各種教育改革支援プログラムに対しても積極的に申請している。その結果、平成 20 年度から累計で 14 件ものプログラムが採択されている（別添資料 8-2-①-1）。

資料 8-2-①-A 全学 FD の実施概略

実施・期間	内 容
6月17日	2013年度三重大学全学FD 「Web授業アンケートシステムによる授業改善」 日 時: 2013年6月17日(月)16:30～18:00 会 場: 第1教育端末室(総合情報処理センター) 対 象: 教員のみ(統一アカウントがわかるものをご持参ください) 講 師: 中西 良文(准教授(教育学部/HEDC教育評価部門)長) 南 学 教授(教育学部/HEDC教育評価部門) 中島 誠 講師(HEDC) 内 容: 1. 授業アンケートシステムの活用について 2. 授業アンケートシステムの操作方法について 3. 授業アンケートシステムについての演習 4. 可視化システム(仮)との連携について 主 催: 高等教育創造開発センター 参加をご希望の方は、PC台数に限りがあります(約60台)ので、なるべく事前にお申込みください。(当日参加も受け付けます。) 【申込・問い合わせ】 共通教育事務室(高等教育創造開発センター担当) TEL&FAX: 059-231-5615(内線3771) E-mail: hedc@ab.me-u.ac.jp 当日の配布資料 (予約限定) 配布資料① 配布資料② 配布資料③

(出典：本学ウェブサイト <http://www.hedc.mie-u.ac.jp/event/activities2013.html>)

資料 8-2-①-B 全学 FD 実施状況

年度	活動内容（タイトル）	参加者					合計
		教員	職員	学部生	院生	学外者等	
平成23年度	入試分析報告会	40	2	0	0	0	42
	3つの方針の策定に向けて	39	0	0	0	0	39
	就業力育成のためのキャリアアップ研修会	13	0	0	0	0	13
	大学教育カフェ-三重大学eポートフォリオの新しい展開	11	0	0	0	0	11
	教育の評価について考える	18	2	0	0	0	20
	広報・入試・カリキュラム改革の結果の分析をしていますか	19	5	0	0	0	24
	三重大学版初年次教育の展開と検証ー全学生対象のPBL型教育ー	26	5	0	0	0	31
	TAのための研修会	2	3	0	0	0	5
	総計	168	17	0	0	0	185
平成24年度	入試分析報告会	28	4	0	0	0	32
	PBLの効果を上げる工夫	23	2	0	0	0	25
	東海地区大学教育研究会	2	7	0	0	0	9
	『自己調整学習(Self Regulated Learning:SRL)』の観点から大学生の学習を考える	15	2	1	0	3	21
	TAのための研修会	8	0	12	1	1	22
	はじめてみませんか！Moodle & e-Portfolio 講習会	18	0	1	0	1	20
	総計	94	15	14	1	5	129
平成25年度	Webアンケートシステムによる授業改善	27	4	0	0	0	31
	入試分析報告会	29	4	0	0	0	33
	海外におけるPBL先進事例報告	17	2	0	0	0	19
	活用してみませんか！Moodle & e-Portfolio 講習会	19	7	0	0	1	27
	総計	92	17	0	0	1	110

（出典：教務チーム作成資料）

資料 8-2-①-C 学部・研究科における FD の実施状況

学部等	FD の実施状況	具体的な取り組み
人文学部	①FD 研修会 （年 5 回） ②FD 活動報告書	①FD 研修会及び FD 講演会の企画実施のための FD 委員会を設置した。これにより、学部の方針が直接反映されるとともに、それぞれの学科、地域、プログラムにおける FD 研修会の実施が円滑に行われるようになった。 ②FD 活動内容はホームページ随時公開し、次年度始めには「FD 活動報告書」として冊子にもまとめられている。
教育学部	①プロジェクト型 FD ②授業公開	①新規プロジェクト型 FD として、平成 23 年度より「協同的な学び」についての附属中学校との合同学習会を企画実施している。これにより、本学部が進める教員養成型 PBL 教育の具体的に進めるための教育力の向上を図っている。 ②教員相互に授業を公開することで改善点等を明らかにし、授業改善に取り組んでいる。
医学部	①学生参加の合宿形式 FD（医学科） ②ショート FD（医学科） ③FD 研修会（看護学科）	①年 2 回の FD を継続して実施。これらの FD は学外施設を利用して、1 泊 2 日で実施する合宿形式であり、教員同士、あるいは教員と学生が教育をテーマについて意見交換することができるよう工夫をしている。 ②平日の夕方に 2 時間程度実施。実施初年度の平成 24 年は合計 5 回のショート FD を実施した。FD のテーマについては医学教育カリキュラムから、教員からの要望の多いテーマ、新しく導入する教育方法等に関するテーマを

		取り上げている。 ③以下の基本方針に基づき、各年度で教員のニーズに応じた活動を計画し行っている。①全学の教育目標と学科の教育目標の整合性を確認しながら、全学 FD や高等教育創造開発センター活動と連携した活動を行う。②看護系では、2回の保助看法改正を受けて、平成 21 年ならびに平成 24 年度に2回のカリキュラム改正が実施された。そのため、FD を通して、新カリキュラムの内容と学生の学びを評価しながらより質の高い教育を行う。③教員の教育実践能力を向上させるために、FD 活動を通して、教育方法を学び互いに研鑽しあう。
工学部	FD 講演会	毎年「工学部 FD 講演会」を開催しており、工学部の教育目標としての「4つの力」を養成するための重要な議題を選定し開催している。
生物資源学部	①教育貢献表彰制度・公開授業・教員相互の授業参観 ②教員集会	①学部で開講される全ての授業科目について、学期ごとに学生の授業に関するアンケートに基づき、学生評価の高い授業を行った教員に対して、教育上の貢献を称え表彰を行っている。また、表彰者の講義は、翌年の同学期に開講される講義を「公開授業」とし、学部の教員がこれを参観することにより、個々の講義の改善に役立てている。 ②教員集会を開催（平成 25 年度：15 回）しており、その中で学生指導のあり方や卒業時アンケートの集計結果などの教育改善に関するテーマに取り組んでいる。
地域イノベーション学研究所	FD 研修会	e-ラーニングシステム「Moodle」の使用方法や問題発見解決学習法（Problem/Project based Learning；PBL）に対する講演とグループ討論を実施し、教員と職員のコンピュータ・システムへの理解度の向上、コミュニケーション能力などを向上させる研修を研究科独自に実施。

（出典：各学部・研究科提供資料を基に作成）

別添資料 8-2-①-1 教育系補助金採択状況

【分析結果とその根拠理由】

主に高等教育創造開発センターで企画された全学対象の FD、及び各部局で企画された FD を実施し、教育の質の向上や授業の改善に努めている。これら活動の改善は、その後の文部科学省や経済産業省などの各種教育改革支援プログラムの採択へとつながっている。

以上のことから、ファカルティ・ディベロップメントの活動が、適切に実施され、教育の質の向上や授業の改善に結び付いていると判断する。

観点 8-2-②： 教育支援者や教育補助者に対し、教育活動の質の向上を図るための研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

【観点到に係る状況】

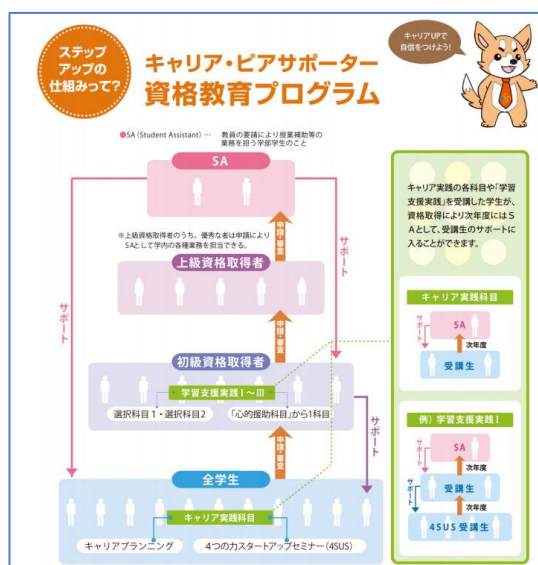
本学独自の制度として、学生が学生の生活や修学を支援する「キャリア・ピアサポーター」の

制度を設けている（資料 8-2-②-A）。キャリア・ピアサポーターを希望する学生は資格に応じたキャリア実践科目を履修し、申請・審査の後に「キャリア・ピアサポーター初級資格」や、「キャリア・ピアサポーター上級資格」の学内資格が認定される。さらに、上級資格取得者のうち優秀な者は申請・審査により、SA（Student Assistant）の資格が取得できる（別添資料 8-2-②-1）。SA の資格を取得した者は、「三重大学生チューデント・アシスタントに関する取扱要項」に基づき雇用され、授業等における学生支援業務に従事することができる。これら資格の取得には各段階において、必要な知識を習得するための科目履修や、上級資格には学習支援を行うための実践科目が設置されており、教育補助者として質の向上を図るための教育プログラムが整備されている。

TA については、高等教育創造開発センター主催の研修会を毎年度開催し、TA の役割と心構えについて、TA 及び TA 採用予定者を対象に事前教育を行っている（別添資料 8-2-②-2）。また、教員及び TA 向けのパンフレットを作成し、教員、TA に周知し、教育活動の質の向上を図っている（別添資料 8-2-②-3）。

また、技術職員に対しても、職務に必要な専門的知識・技術・教育研究支援などを取得することを目的とした学内研修を定期的の実施しているほか、研究科においても生物資源学研究科附属施設の紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンターの技術職員に対する技術部職員研修会を実施している（資料 8-2-②-C、資料 8-2-②-D）。

資料 8-2-②-A キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム (SA 含む)



(出典：本学ウェブサイト <http://www.mie-u.ac.jp/life/pdf/piasapo-ta-sikaku.pdf>)

資料 8-2-②)-B 三重大学スチューデント・アシスタントに関する取扱要項

【別冊 42】 大学規則集 p 222

資料 8-2-②-C 平成 24 年度技術系職員学内研修実施状況

研修名	研修期間	受講対象者	受講者数
三重大学教室系技術職員研修（中堅）	平成 25 年 2 月 6 日～8 日	54 歳以下の平成 22 年度の研修を受講していない教室系技術職員で、所属の長が推薦する者	18 名
三重大学技術発表会	平成 25 年 2 月 8 日	三重大学及び他大学・高専等に所属する技術職員で、発表及び聴講を希望する者	52 名

(出典：人事チーム)

資料 8-2-②-D 平成 25 年度生物資源学研究科附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター技術部職員研修会

<http://www.mie-u.ac.jp/topics/kohoblog/2014/03/post-833.html>

別添資料 8-2-②-1 キャリア・ピアサポート資格取得者数（初級・上級・SA）

別添資料 8-2-②-2 TA 研修会開催実績

別添資料 8-2-②-3 教員及び TA 向けパンフレット

【分析結果とその根拠理由】

スチューデント・アシスタントとして教育補助者を育成するための教育プログラムの整備，TA に対する質の向上を図るための研修やパンフレットの配布などが定期的に行われている。また，技術職員についても職務に必要な学内研修を定期的の実施している。

以上のことから，教育支援者や教育補助者に対し，教育活動の質の向上を図るための取組が適切に行われていると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 1) 授業改善アンケートからのフィードバックは，個々の教員の授業改善を促進している。特に教育学部では，授業改善アンケート結果とそれに対する教員のコメントを学内ウェブサイトで公開し，授業改善の取組みに役立てている。
- 2) 主に高等教育創造開発センターで企画された全学対象の FD，及び各部局で企画された FD を実施し，教育の質の向上や授業の改善に努めており，これらはその後の文部科学省や経済産業省などの各種教育改革支援プログラムの採択へとつながっている。
- 3) 本学独自の制度として，学生が学生の生活や修学を支援する「キャリア・ピアサポーター」の制度を設けている。キャリア・ピアサポーター資格の認定を行うにあたり，教育補助者として質の向上を図るための適切な教育プログラムが整備されている。

【改善を要する点】

該当なし